



松江小だより

令和6年9月2日
9月号
江戸川区立松江小学校

～「夏休みからお帰りなさい！」2学期も「どきどきわくわく」の毎日を～

校長 大須賀 慎一

44日間の夏休みから子供たちが学校へ帰ってきました。「夏休みからお帰りなさい！」。この夏は、猛暑を通り越し酷暑とも言える日々が続いていました。災害級の暑さとも言われており、子供たちをはじめ保護者・地域の皆様方の体調を心配しておりましたが、大きな事故などなく2学期を迎えられことにほっとしております。9月に入っても、残暑厳しい日々が続くことが予想されます。体育的行事を控える9月ですので、引き続き熱中症対策に万全を期して過ごしてまいります。



44日間の夏休み、たくさんお話したいことがあります。まずは、パリオリンピックの感動は記憶に新しいところです。注目された選手の活躍、期待された選手や競技の予想外な結果などありましたが、様々な競技におけるアスリートの活躍に胸が熱くなりました。どの競技も一流のアスリートの姿に、一喜一憂し、声を枯らして応援した毎日で寝不足になった方も多かったのではないのでしょうか。8月28日からは、パリパラリンピックも始まっており、まだまだ熱い戦いは続いています。

パリオリンピックとともに、全国高等学校野球選手権大会も熱い戦いが繰り広げられました。今大会は、低反発バットの導入によりこれまでの戦いとは異なる大会となりました。優勝候補と言われた強豪校が次々に姿を消す中、江戸川区にある関東第一高校が決勝戦に進出したことは喜ばしいことでありました。惜しくも準優勝ではありましたが、決勝戦の延長タイブレークの戦いには、どちらが勝ってもおかしくない状況にハラハラして観戦していました。どの学校も、これまでの練習の成果を十分に発揮し、高校野球ならではの戦い、応援する友や地元の方々の姿に胸が熱くなり、これこそが「青春」と呼べるものであると、私自身高校球児であった数十年前を懐かしく思い出しました。

大好きな旅もたくさんしました。その旅の中で、自身がライフワークとしています、被災地訪問へ行ってきました。1月1日に発生した能登半島地震の被災地の一つである和倉温泉に行きました。和倉温泉は温泉地としては、大変有名であり、たくさんの旅館やホテルがあり人気があります。現地に着くと、ほぼすべてのホテルと旅館が被災し、中には建物が斜めになっていたり、傾いていたりしていました。現地の方からは、復興に向けてではなく建物の取り壊しをどうするのか、何も決まっていないと深刻なお話を聞きました。夜になると、明かりが一つもつかない温泉地に、被災の厳しさを実感しました。東北の被災地も訪問し、震災とともに原発事故で被災した地区の様子や原発事故のその後を取材してきました。震災の被害を受け、原発事故による避難という「複合災害」の厳しさを目の当たりにするとともに、原発の廃炉に向けて気の遠くなるような取組に呆然としました。(実際、8月22日に核燃料デブリの取り出しが延期になった報道がありました。)。2つの被災地を訪問し、改めて被災の現状を学び、復興に向けて取り組むご苦労、そして何よりも被災は続いていることを、私たちは伝えていかなければならないと強く思いました。機会がありましたら、子供たちだけでなく保護者・地域の皆様にもお話をさせていただければと思っております。

9月28日(土)には、松江小にとって新しい体育的行事として、名称も新たに実施いたします。子供たちが名称を考えました。まもなく、お披露目がされます。ぜひ、新しい体育的行事にご期待ください。2学期も「どきどきわくわく」の日々となるよう、教職員一同取り組んでまいります。ご期待いただくとともに、多くのご理解ご支援を賜りますこと、お願い申し上げます。